

里地里山保全・再生の特徴的取組 個票 A（対象地域の概況）

NO.89		呉羽丘陵	生物地理区分		コナラ林(西日本)	
			地域区分		都市周辺	
所在地	都道府県	富山県	地形条件	1.山地	2.山麓部	○ 3.丘陵・台地
				4.低地	5.その他	
	市町村	富山市	環境要素	1.二次林	○ 2.草地	○ 3.水田
				○ 4.畑	○ 5.小川・水路	○ 6.ため池
	集落名称等			○ 7.池沼・湿地	8.社寺林	○ 9.人工林
				○ 10.その他（竹林）		

環境要素（対象とする地域に含まれる環境要素）

：面積割合が最大のもの ○：それ以外の環境要素

自然環境・景観保全、国土保全関連の法指定状況	自然環境、景観、文化等の観点からの選定・評価
県定公園、風致地区、鳥獣保護区、保安林指定地域	朝日新聞社が1986年に出版した「日本の自然100選」 「21世紀に残したい日本の自然」
特徴的な動植物や生息環境	対象地の景観の現状
里山環境：ムササビ、タヌキ、ノウサギ、アズマモグラ、ニホンジネズミ、コナラ、イヌシデ 等 湿地環境：アカガエル、オニヤンマ 等 田園環境：アマガエル、イモリ 等 用水環境：ゲンジボタル、ヘイケボタル等	観光パンフレット等に写真が使用されている

	
撮影時期：2005年9月 写真の説明：二次林（コナラ、ヒサカキ等）と梨畑、梨畑を廃止した草地	撮影時期：2008年2月 写真の説明：丘陵に広がるモウソウ竹林

NO.89		呉羽丘陵		取組主体	1.地域コミュニティ(集落・組合等)
所在地	都道府県	富山県			○ 2.団体・企業・学校等
	市 町 村	富山市			○ 3.行政による支援施策の活用
	集落名称				4.多様な主体が参加・連携する組織体
					5.その他

取組 主体	主な主体の名称		悠久の森実行委員会		
	その他の主体の名称		悠久の森実行委員：きんたろう倶楽部、市民いきものメイト、呉羽丘陵森の楽校、呉羽山観光協会（「旧北陸歩道を歩く」実行委員会）		
目的 ●：主 ○：その他	○	2. バイオマスなど新たな資源としての利用			
		対象となる資源	竹		
		利活用方法等	モウソウチク（孟宗竹）：堆肥化実験、クラフト活用、e t c		
	●	3. 環境教育や自然体験、エコツーリズムの場としての利用			
		自然観察会	＊	鳥足跡、山採、里山、木、草等	
		環境教育・学習活動	＊	小、中、高、大学の実習等	
		里地里山体験・環境保全	＊	竹林伐採、炭焼、景観保全等	
		農林業体験活動	＊	畑づくり、ソバづくり、農作物の収穫	
		エコツアー	＊	施設連携の体験バスツアー、かんじきハイク等	
		その他	＊	史跡を巡るウォーキングツアー	
		○	4. 野生動植物やその生息地の保全・管理		
	取組内容		呉羽丘陵にある動物園、富山市ファミリーパーク（33ha）を中心に職員、市民による保全・管理・調査、2005 ファミリーパーク地内自然環境総合調査報告（富山市ファミリーパーク）1998 ファミリーパーク地内自然環境総合調査報告（富山市ファミリーパーク）1994 呉羽丘陵自然環境調査（富山市科学文化センター）		
	○	5. 地域の良好な景観の保全・修復			
		取組内容	市民いきものメイト、きんたろう倶楽部、地域住民、市による竹林伐採・整備。地域住民による遊歩道、古墳の除草等		
	○	対 象	6. 里地里山の伝統的な生活文化の知恵や技術の継承		
			生活行事		
			資源利用技術	＊	炭焼、和紙づくり、お茶づくり、草木染、天蚕、竹加工、ソバづくり
			その他	＊	在来家畜の保全と活用（木曾馬による馬耕）
		取組内容		・富山市ファミリーパークでの体験による知恵、技術の継承、在来家畜の飼育展示 ・くれは悠久の森事業における取組の紹介、体験	
	●	7. その他			
		取組内容	地域の資源（人、施設、自然、文化、歴史、民俗、芸術）を結びつける新しい里山の利活用		
連携・協働による取組 内容・役割分担等			悠久の森実行委員会：構成委員は地域自治振興会、商工会、観光協会、小・中学校、大学、市民団体、県、市の全施設、地域住民等で 44 団体・3 個人、現在、事務局業務を含めた実行委員会の中心的な役割を担っているのは富山市ファミリーパーク。実行委員会では、里地里山に地域住民を誘うための、地域住民主体型イベントの開催、里地里山を舞台とする継続的なプログラム提供を行っている。		

取組の特徴や強調したい点	事業の中核をなす基本事業として、毎年1回、地域住民、市民に呉羽丘陵に足を運んでもらい、「新しい里山の利用」について知ってもらうとともに、呉羽丘陵の将来について一緒に考えてもらう機会を設けることを目的にイベントを開催している。第1回(2007年)の時点では富山市ファミリーパークが中心となってイベントを運営していたが、第2回(2008年)の開催に当たって、様々な特技を持つ地域住民を「いち押しせんせー」として登録し、「住民が住民に教える」というスタイルを導入したことが大きな転機となり、以降は「地域住民主体型」でイベントが運営されている。イベントの内容は、「新しい里山再生モデルの創造」という事業理念を踏まえた内容で組んでおり、現在は「ESD(持続可能な開発のための教育)」、「冒険教育」、「生物多様性」といったテーマに力が注いでいる。また、毎年1回のイベントに加えて、「くれは里山ネット(施設連携事業)」、「呉羽丘陵を中心とする様々な施設・市民団体・教育機関等の連携プログラム」や、「地域活性化事業」(地元の特産品や農産物振興に関するプログラム)も実施されている。これらのプログラムは年を重ねるごとに充実しており、地域住民が通年にわたって里山と触れ合うことができる機会となっている。
--------------	--

取組の概要	市立動物園中心に、人、自然、文化を結びつける新しい里山利活用	課題グループ
事例の特性	環境学習等のプログラムの開発・運営	● 学習体験 ● 仕組
取組の中で他の地域の参考となる点	市立の動物園である富山市ファミリーパークが中心となり、人と自然を結びつける場として里山の保全管理の役割を担いながら、多様な活動団体と連携して環境教育や自然体験、伝統技術継承などのプログラムを開発・運営している。	